

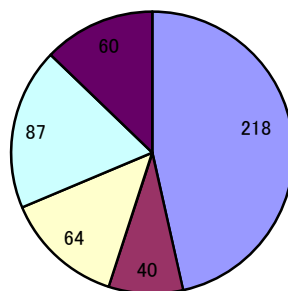
景気動向

製造業の業況は改善、非製造業もわずかに改善。
先行きは横ばいの見通し。

- 調査時点 平成22年4月調査(22年3月末時点)
- 対象企業 749社
- 回答企業 469社(回答率:62.6%)
(製造業218社、建設業40社、卸売業64社、
小売業87社、サービス業60社)
- 調査時期 四半期毎(3, 6, 9, 12月末時点)

DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値。

回答企業	
製造業	218
建設業	40
卸売業	64
小売業	87
サービス業	60



- 製造業
- 建設業
- 卸売業
- 小売業
- サービス業

<全産業>

全産業の業況DI(▲26.7)は、前回(▲53.7)に比べて27.0ポイント改善した。
業種別では製造業の業況DIは▲6.0(前回▲42.8)となり、36.8ポイント改善した。
卸売業、サービス業の業況DIも前回に比べて改善を示し、小売業の業況DIもわずかに改善を示したが、建設業の業況DIは横ばいを示した。
各業種からは、「回復傾向にある」「受注状況が改善してきた」という声がある一方で、「厳しい状況が続いている」「売上が激減」という声もあった。
3か月先見通しは、製造業でわずかに悪化を見通しているのに対し、非製造業はわずかに改善を見通している。

■全産業の主要4項目DI値

	業況	売上	採算	資金繰り
3月末時点	-26.7	-28.3	-35.0	-20.4
12月末時点	-53.7	-49.6	-48.5	-34.3
前回比	27.0	21.3	13.5	13.9

■全産業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	19.8	11.4
悪化	46.5	65.1
DI値	-26.7	-53.7
前回比	27.0	10.9

■12月末時点からみた 全産業の業況3か月先の見通し

業況3か月先見通し	
良化	7.4
悪化	50.2
DI値	-42.8

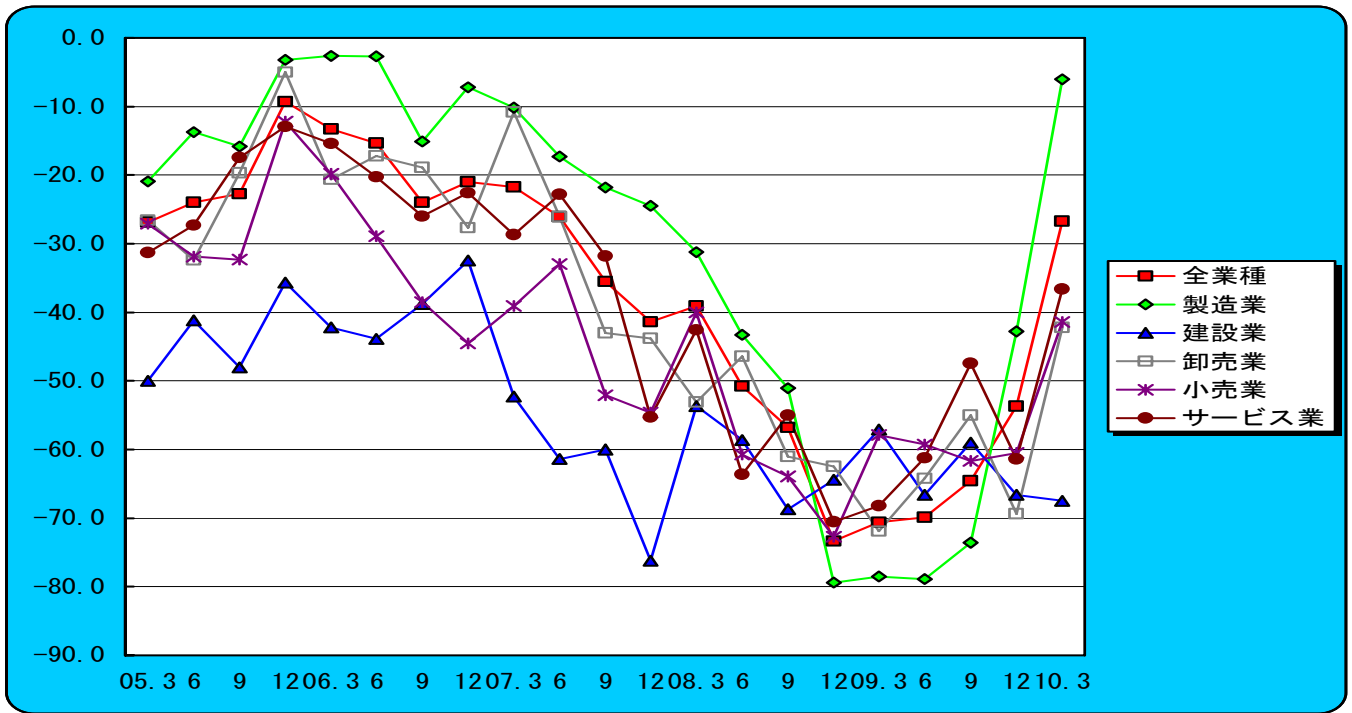
■製造業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	30.7	15.8
悪化	36.7	58.6
DI値	-6.0	-42.8
前回比	36.8	30.8

■非製造業の業況

業況	3月末時点	12月末時点
良化	10.4	7.2
悪化	55.0	71.2
DI値	-44.6	-64.0
前回比	19.4	-7.9

■業種別業況DI値推移グラフ



< 製造業 >

業況DI値	
今回	-6.0
先行き	-13.8
前回比	36.8

対象企業	336
回答企業	218

業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善を示した。業種別にみると「鉄鋼・非鉄」「金属」「一般機械」「電気機器」「輸送用機器」「精密機器」「漆器」「プラスチック」の業況が大幅改善を示し、「縫製」「木材・木製品」の業況も改善を示した。「織物」「ニット」「印刷」「窯業・土石」の業況は横ばい、「酒造」は悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいてわずかに悪化の見通しを示した。

業種別にみると「食料品」「酒造」「織物」「縫製」の業況は改善を見通しているが、「ニット」「木材・木製品」「金属」「一般機械」はわずかに悪化、「鉄鋼・非鉄」「電気機器」「漆器」「プラスチック」は悪化を見通し、「輸送用機器」は大幅悪化を見通している。

「良化するのではと期待しているが、なかなか好転しない」「長期的な見通しが立たない」といった声があった。

自由意見

製造業

- 工場内の修繕費や設備投資を余儀なくされてきていることが負担になっている。【食料品】
- 今度こそ世の中が良化するのではと期待しているが、なかなか好転せず困っている。【食料品】
- 景気の悪化による需要の減少、低価格指向、競争の激化が進んでいる。【食料品】
- 3～4月は一時的に良かったが、5月以降例年の秋物がその時期になるまで端境期となる為、仕事が無くなる。【縫製】
- 今夏以降は、回復が見込めると思います。【木材・木製品】
- 5/1～5/5に開催される「大せとまつり」が唯一の明るい期待です。【窯業・土石】
- 中小・零細の我々は、もう限界にきている。【窯業・土石】
- 採算ラインに乗りつつある。更に受注増となれば、秋には人員の補充も検討していく。【金属】
- コストダウンがキツイです。【一般機械】
- 昨年12月から受注状況は改善してきたが、長期的な見通しが立たないため、製造人員をどの様にして強化していったらよいか決められないでいる。【電気機器】
- 前年3月より良くなったと言っても、雇用助成金が無いと雇用を守れないのが現状です。【電気機器】
- 自動車業界は、国内・欧米では相変わらずだが、中国・東南アジアでは少しずつ回復している。【輸送用機器】
- 状況はさらに悪化している。【プラスチック】
- 車載関連部品は回復傾向にあるが、材料費の値上げや小ロット生産で利益は減少傾向にある。【プラスチック】

<建設業>

業況DI値	
今回	-67.5
先行き	-62.5
前回比	-0.9

対象企業	65
回答企業	40

業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて横ばいを示した。業種別業況をみると「土木」の悪化に対し、「建築」は改善を示した。3か月先見通しの業況はわずかに改善を見通しており、採算・資金繰りは横ばい、売上はわずかに悪化を見通している。

業種別にみると、売上では「土木」「建築」ともにわずかに悪化の見通しに対し、資金繰りでは「土木」がわずかに改善、「建築」がわずかに悪化の見通しとなった。「当期売上は前期比増となるが、受注残では前年同期比を下回る」「必死で経営を続けている」との声があった。

自由意見

建設業

- 景気低迷のまま安定した方が経営は楽だと思う。【土木】
- 当期(H22/6期)の売上は前期比増となるものの、受注残では前年同期を下回る。【建築】
- 生き残りをかけて必死で経営を続けています。【建築】

<卸売業>

業況DI値	
今回	-42.2
先行き	-26.5
前回比	27.2

対象企業	98
回答企業	64

業況・売上は改善、採算・資金繰りはわずかに改善を示した。

業種別にみると「飲食料」「鮮魚」「建築材料」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示した。「機械器具」は業況・売上ではわずかに改善を示したが、採算・資金繰りはわずかに悪化を示した。「青果物」は業況・採算でわずかに改善を示したが、売上は横ばい、資金繰りはわずかに悪化を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいてわずかに改善の見通しを示した。

業種別にみると「衣服」「飲食料」「機械器具」「建築材料」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を見通しているのに対し、「鮮魚」は売上・採算・資金繰りで横ばい、業況は悪化を見通している。

「買い控え傾向が続き、需要減に変わりない」「売上が激減している」という声があった。

自由意見

卸売業

- 季節性の強い商品を扱っているため、月によって売上変動が大きい。12～3月は売上増、4月～11月は売上減となる。【衣服】
- 自由競争を妨げず、民間が自分達の手で生き残っていけるような規制撤廃や税制改正を望む。【飲食料】
- 景気低迷による買い控えの傾向が続いており、需要減の基調は変わらない。【機械器具】
- 不況のため部品メーカーが生産を抑えており、部品調達にかなりの期間がかかる傾向が出てきている。【機械器具】
- これまで来てくれた客が高速道路の料金の影響で先へ行く様になったのか、ほとんど来なくなり、売上は激減である。【中小スーパー】

<小売業>

業況DI値	
今回	-41.4
先行き	-37.9
前回比	19.1

対象企業	148
回答企業	87

業況・採算はわずかに改善を示したが、売上・資金繰りは横ばいを示した。

業種別にみると「自動車販売」「大規模店」の業況は大幅改善、「飲食料」「家電品」の業況も改善を示したが、「家具・建具」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化傾向を示した。

3か月先見通しは、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて横ばいを見通している。

業種別にみると「飲食料」「家具・建具」の業況・売上は改善を見通しているが、「中小スーパー」の資金繰り、「衣料」の採算はわずかに悪化を見通している。「自動車販売」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化を見通している。

「急激な販売価格の低下は、今までにない」「先行きの業況が見えない」という声があった。

自由意見

小売業

○廃業を考えている。	【衣料】
○中小零細店の消費税負担は低価格競争時代において、かなり厳しくなっている。	【衣料】
○販売者、消費者ともに元気がない。	【飲食料】
○国内経済の悪化により、どの業態も悪化している状況である。	【飲食料】
○もうダメです。	【飲食料】
○エコポイント関係の業界は資金の流れが良いかも知れませんが、それ以外は回収が悪くなっている。	【飲食料】
○現在の売掛金の回収が済めば、状況は良化すると思われる。	【家電品】
○急激な販売価格の低下は、今迄にない。	【家電品】
○エコポイントの効果が出ている。	【家電品】
○先行きの業況は見えない。	【家電品】
○会津方部は、自動車販売台数からみても需要が最悪である。	【自動車販売】
○国の補助金制度の効果が大きいにあった。	【自動車販売】
○中古車業界は、最悪の様相である。今後は人件費の点を考慮するか、人員整理が要求される。	【自動車販売】
○耐久消費材の需要が減少し続けており、さらにデフレが相まって売上高の減少がひどい。	【家具・建具】
○会社を取り巻く環境としては、大きな変化は見られず厳しい状況が続いている。	【大規模店】

<サービス業>

業況DI値	
今回	-36.6
先行き	-30.0
前回比	24.8

対象企業	102
回答企業	60

業況・売上は改善を示し、採算・資金繰りもわずかに改善を示した。業種別にみると「運送」「自動車整備」は、業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を示したのに対し、「情報サービス」では業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて悪化傾向を示した。「タクシー」は売上・採算でわずかに改善を示したものの、資金繰りではわずかに悪化を示した。「観光旅館」の業況・売上はわずかに改善を示した。3か月先見通しの業況・売上はいずれもわずかに改善を見通し、採算・資金繰りは横ばいを見通している。業種別にみると「観光旅館」「タクシー」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてにおいて改善傾向を見通しているのに対し、「自動車整備」は業況・売上・採算・資金繰りのすべてで悪化傾向を見通している。「運送」は業況・採算・資金繰りで悪化傾向を見通している。「情報サービス」は業況・採算・資金繰りは横ばいを見通し、売上はわずかに悪化を見通している。「低額志向になって、歯止めが効かない」「業界全般に悪い」という声があった。

自由意見

サービス業

○悪いです。	【旅館・ホテル】
○益々悪くなる。会社の経営が苦しい。	【旅館・ホテル】
○新たな借入れが出来ず、設備のメンテナンスも行えない。廃業するのも時間の問題である。	【旅館・ホテル】
○宿泊・宴会(法事・歓送迎会等)の客数は増えたが、近辺の温泉ホテルの販売単価が低いので、当館も販売単価を上げることができずにいる。	【旅館・ホテル】
○業界は全般にどうしようもないくらい悪いと思う。低額志向になって、歯止めが効かない。固定費の水道光熱費が辛い。	【旅館・ホテル】
○依然としてデフレ状態が続いており、景気の低迷は当分続くと見られる。	【タクシー】
○昨年度末より引き続き状況は厳しく、大きな変化はない。これからの業界の動向により様変わりする。	【タクシー】